

INTER SECTION

[インターTOMAS会員のための英語情報誌 インターセクション]

■ NEWS & TOPICS - 02 | 大学入試改革で問われる英語4技能の鍛え方

特集
企画

誌上再現! 会話のレポーターが
ぐんぐん増える!

プライベート・レッスン潜入レポート

先生と1対1で会話をするプライベート・レッスン。受講している会員は
「英語が話せるようになった」「会話が续くようになった」と効果を実感しています。

どんなレッスンを行っているのか、実際の授業の様子をご紹介します。 [4ページより](#)

VOL. 03

INTERSECTION

..... 交差点

英語の最新情報が行き
交う[交差点]のような
雑誌をめざします。

インターTOMAS 大崎スクール

Paul 先生

■PROFILE

イギリス出身。日本在住歴11年。
幼児から社会人まで幅広い年齢
層を指導。セミナー講師としての
経験もあり、英検やTOEIC、
TOEFLといった資格取得の授業も
行う。プライベートではバンドを結
成してライブハウスで歌っている。

Paul先生のおすすめ英語学習法

楽しみながら勉強する!

I often use movies and music to study language—songs have rhythm and your favorite films have a familiar structure, which can be used to make remembering vocabulary much easier. Using subtitles or checking song lyrics on the internet is a great way to turn a hobby into serious study time; you can then practice the new vocab in lesson. I would also remind you that serious study does not mean that you can't enjoy it; quite the opposite, actually. I think that enjoying study makes information easier to remember, so find a system that makes study enjoyable for you.

私は映画や歌を使って語学学習をしています。それは歌のリズムやよく使われるフレーズが映画に出てくるので、覚えやすいからです。字幕を使ったり、歌詞をネットで調べることは、趣味を学習の時間に変えるよい方法ですね。覚えた新しい表現をレッスンで練習できますよ。忘れないでほしいのは、真剣な学習は楽しめない、というのは実は逆だということ。楽しみながら勉強すると覚えやすいので、自分にとって楽しい学習方法を見つけましょう。

今回のテーマ

大学入試改革で問われる
英語4技能の鍛え方インターTOMAS
教養スクールエリア・マネージャー
西村 展和

セミバイリンガル・メソッドで伸ばす英語力

今の高校1年生から、センター試験に代わって大学入試共通テストが実施され、英語では民間の試験を活用して4技能が評価されることになります。インターTOMASには「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を個々に鍛えられるセミバイリンガル・メソッドがあります。4技能を効果的に身につけるための方法を、エリア・マネージャーの西村展和先生にお聞きました。

セミバイリンガル・
メソッドPR
加圧式音読
トレーニング短時間で英語を
聞き取る力を鍛える

身につくスキル 聞く力 読む力 話す力

MS
マイストーリー・
トレーニング表現できることが、
どんどん増える

身につくスキル 話す力 書く力

SR
スラッシュ・
リーディングネイティブの感覚で
読むことができる

身につくスキル 読む力 話す力 聞く力

AW
オートマティック・
ライティング文章パターンを身につけ、
自然に書けるようになる

身につくスキル 書く力 話す力

「聞く力」を鍛える

最初は英語が全く聞き取れなくても、繰り返し聞くことで英語のスピードに耳が慣れ、だんだん聞き取れるようになります。PRトレーニングでは、テキストを文節ごとに区切り、講師が英文と和訳を交互に音読するのを聞いて、復唱していきます。英文を聞いて音読を繰り返すことで、英語を発話する量と質の両方を追求します。短時間のトレーニングで、速いと感じていた英語がゆっくり聞こえるようになり、同時に読む力と話す力もアップします。英検のリスニング対策としても効果的です。

「話す力」を鍛える

英語を話せない理由の一つとして、「間違えると恥ずかしい」という気持ちがあります。正解か不正解かで判断される英語教育を受けてきたため、「この表現は正しいか？」と考えてしまい、とっさに英語が出てきません。また、ディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を言う訓練をしてきていないことも、日本人が英語を話せない理由の一つです。

MSトレーニングでは、「この質問にはこう答える」という定型文を用意して、話すための土台を築きます。まず、自分自身について話したい内容を決めて、その会話のスク립トを講師と一緒に作成。そして、質問されたらすぐにフルセンテンスで答えられるレベルまで、繰り返しアウトプットの練習をします。授業を重ねるごとに表現のレパートリーが増えて話す力が高まり、ネイティブが使う自然な英会話表現を身につけることもできます。

「読む力」を鍛える

読む力をつけるには、まずフォニックス（発音の基礎ルール）が必要です。そのうえで単語、センテンス、文章と段階を追って読んでいきます。

インターTOMASでは、英文の意味のまとまりごとに文章をとらえてスラッシュを入れ、前から訳していく技能を身につけるSRを行います。日本語に翻訳せず、英文の語順のまま意味を理解していく習慣が身につくと、読むスピードが向上し、どういうところが意味の区切りなのかを判断できるため、長文を読んでも理解できるようになります。

また、音読を繰り返すことで、同時に聞く力も身につけることができます。

「書く力」を鍛える

ライティングは文法やスペリングミスなどが明確に出てしまうため、単語や文法のインプットがなければ書き出せません。まずは読む力の基礎知識を身につける必要があります。AWではメールやエッセイ、英検の問題など、それぞれ求められているものを書き上げるための「型」を身につけます。この質問にはこのフレーズを使う、という型を網羅することで、実際のテストでどの型に当てはめればよいか判断できるようになります。

例えば、「What season do you like the best?」という質問文には「My favorite season is〜」「There are two reasons. The first is …」のように回答の型を覚えておき、その後に続く理由を文法やスペリングミスがないように書ければ、求められる形と字数で書くことができます。また、書く力が上達すると正確な論理展開ができるようになるため、より正確な英語を話せるようになるという相乗効果も期待できます。

セミバイリンガル・メソッドの学習で、 「本当に使える英語」が身につきました！

PRトレーニングで読む・聞く力がUP!



単語も知らなかったけれど、
3週間でスラスラ読めるように。



英検では
リスニングで
得点できました

稲田 帆香 さん
小学4年生 (PRトレーニング歴: 4年)

—PRトレーニングではどんな授業をしていますか？

スクリプトのスラッシュで区切っているところまで、先生が読んだ後に、みんなでリピートをする、というのを繰り返します。2〜3人のグループレッスンなので、他の人の発音を聞けて、よいところを見つけられます。

—上達したな、と思う点はどこですか？

最初は単語も知らなくて、レッスンについていくのが大変でした。3週間ぐらいうるとスラスラ読めるようになって、一ヶ月半後ぐらいいは覚えられるようになってきたので、読む力と聞く力がついてきたと思いました。3年生のときに英検5級、4級を受けましたが、リスニングが一番得意です。中学生のうちに準1級を取るのが目標です。

—リスニングはどれくらい上達しましたか？

英検を受けたときは、リスニングで一番点数を取れました。個人レッスンでも、先生の英語を聞き取れるようになってきました。学校でも英語の授業がありますが、先生が話す英語が簡単に聞こえます。



Episode

歌にダンスに英語に、と日々忙しく過ごしている帆香さん。
「英語をべらべらに話せるようになって、海外の舞台女優として活躍したいです」と笑顔が素敵でした。

MSTレーンングで話す力がUP!



英語で自己紹介
できるようになりました。



発音がかなり
上達しました

左：入江 正佳 君
小学5年生 (MSTレーンング歴: 1年)

知らない単語を
予想して読めます

右：入江 正直 君
小学3年生 (MSTレーンング歴: 1年)

正佳君



外国の人と英語で話したいという気持ちがあったこと、小学校から英語の授業が始まるため、みんなよりも一歩先に行きたくて英語を始めました。レッスンを受けてから、英語を話す声が大きく出せるようになって、発音もずいぶん上達したと思います。MSTレーンングで自己紹介の練習をしていたので、英語で自己紹介できるようになりました。家では弟と一緒に音読練習をしたり、英語の本やCDを使って勉強しています。今は英検などの資格を受けるよりも、もっと英語が話せるようになりたいです。

正直君



最初は恥ずかしくてなかなか話せませんでしたが、レッスンを受けるうちに少しずつ単語を読めるようになり、先生の英語も聞き取れるようになりました。テキストの新しいページを読むときに、知らない単語でも予想して読めるようになったので、単語力がアップしていると思います。レッスンで習ったスピーチを暗唱できます。



Episode

正直君が、レッスンで習ったというスピーチを披露してくれました。とてもスムーズな英語で、質問にも流暢に答えてくれました。

会話のレパートリーがぐんぐん増える! プライベート・レッスン潜入レポート

インター TOMASでは、一人ひとりの目的に合わせた個人別カリキュラムを作成し、
プライベート・レッスンを行っています。

ここでは、1歳半から3年半、海外で過ごしていた数見圭治君の授業に潜入。
あなたも授業に参加しているつもりで読んでみましょう。



Student

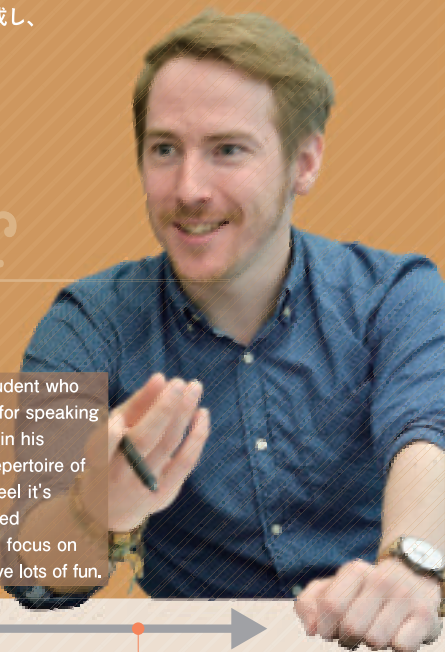
数見 圭治君 [小学6年生]
インターTOMAS 国立スクール

1歳半から3年半、シンガポールに在住
保有資格 英検準2級
(小学4年生で合格。スピーキングテストは2級合格ライン以上の得点をマーク)
入会時期 小学1年生
入会時の目的 1歳半〜5歳までに覚えた英語を忘れないため

Teacher

Tim 先生
インターTOMAS 国立スクール講師

Keiji is a very smart and motivated student who has always shown strong enthusiasm for speaking English. He and I both want to maintain his fluency, while gradually building his repertoire of vocabulary and grammar, and so we feel it's important to practice genuine, two-sided conversation as often as possible. We focus on accurate but natural production and have lots of fun.



レッスンの流れ

0min.
スタート!

20min.
日常会話
最近どこ行った?など、雑談からスタート。

40min.
マイストーリートレーニング
宿題で書いてきたスクリプトを、講師と一緒にチェック。

45min.
会話強化
一問一答レッスンで、会話のレパートリーを増やす。

まずは日常会話からスタート

Tim (以下T): Hello, Keiji!

Keiji (以下K): Hello.

T: How are you today?

K: I'm fine. How about you?

T: Not so bad, but I am a little sleepy.

K: Oh really? Why?

T: Well, I couldn't sleep so much last night.

K: What time did you sleep yesterday?

T: Yesterday, it was pretty late, after 12 o'clock.

K: Oh, that's very late.

T: Yeah, right. Well, tell me. What did you get up to at the weekend?

K: Weekend? I don't know not yet about that.

T: No, "What did you get up to?"

K: I don't know what that means.

T: Well, if I ask you "What did you get up to?" That's like saying "what did you do?" If we talk about a future event like

this weekend or next weekend, I can just say "what are you up to?" So, we don't need to say "get". But if it's past tense, we say "What did you get up to?" You don't really hear it so much in listening-tests and it doesn't really appear in text books so much, but it's very common in conversation. So, "what did you get up to last weekend?"

("What did you get up to?"は、"何していたの?"という過去について聞く表現だよ。もし、今週末など未来について聞く場合は"What are you up to?"で、"get"は使わない。"What did you get up to?"は、会話ではよく使われるよ)

K: Last weekend I went to Tachikawa.

T: Why?

K: Because my mother bought a new something. It's secret but....

T: Ah...that's a secret thing, a mystery item. Oh, I know! Did she buy a new spoon?

K: No. I think it's quite same.

T: Quite same as what?

K: Quite same as the spoon?

T: Oh, so you could say "I think it's quite similar." If you say "same" you have to say, "the same". It means exactly like something else. If it's a little bit, not quite but "a little same", you have to say "similar". It means it's like it but not exactly the same. So, it's a little similar to a spoon?

("same"を使う場合は"the same"になって、"まさに同じもの"という意味のときに使う。少しでも違う場合は"similar"を使うんだよ)

K: Yeah. It's so similar.

T: Well, ok. I have no idea so I guess you win this time. You can keep it a secret. Ok, so why don't you ask me some questions now?

K: Ok, do you like bugs?

T: Not really.

K: Why?

T: It depends. Well, they're kind of gross. I like beetles. Beetles are cool. But I do not like spiders.

K: Why?

T: I have a fear of them. Do you know What that means?

K: I don't know.

T: Fear is like an emotion. When you're scared of something, you feel "fear". When something makes you happy, you feel "joy".

("fear"は感情だよ。何かを怖いと思うとき、
"fear(恐怖)"を感じるし、何か嬉しいことが
あったら、"joy(喜び)"を感じるよね)

K: Yeah.

T: Right? So, I have a fear of spiders, which means I'm scared of them.

(だから、"I have a fear of spiders"は、"クモ
が怖い"という意味になるんだ)

自己表現をブラッシュアップ 「マイストーリー」の添削へ

T: OK, I want to check your "My Story". Do you have "My Story"?

K: Maybe. Oh, yeah.

T: Let's have a look here. "Last Thursday, my school had seven lessons, for..., my first time"?

K: Oh, for first...for the first time?

T: Right. Is it the first time that the school has had seven lessons?

K: Yeah.

T: Right, then let's put "the first time". If the school had seven lessons before but it's the first time you experienced it, then maybe you can say "my first time". So, "...because it was not a last head teacher". What do you mean?

(ここでは"the first time"となるよ。以前にも7
限まで授業があって、今回、圭治が初めて7限
まで受ける、ということなら"my first time"に

授業のスタートは日常会話から。
お互いに質問しながら、テンポよく会話が弾む。

なるんだ)

K: The last head teacher go away so the new teacher come so...

T: I see. So, the new teacher changed the rules? Changed the system? Then, you can just say more naturally, "because we got a new head teacher".
(新しい校長先生が時間割を変えたのかな?それなら、"新しい校長先生が来たから"と言った方が自然だよ)

K: Yeah.

T: "We" is like the whole school. "That seven lessons have once a month and seventh lesson is a committee." So "That seven lessons have once a month." So, "seven lessons *wa* once a month *wo motteiru*."?

(この文では"7つの授業は月に1回を持っている"という意味になってしまうよ)

K: Oh, no.

T: So, what do you want to say?

K: I want to say that seven lessons has like...is like...

T: "Once a month" is the time right? So, in that time, seven lessons or something..., it "ha..."

K: "It happens..." ?

T: Right! "It happens once a month". Something happens, right? The lessons don't do anything. The teacher teaches, the lesson just happens. So, you could say "those seven lessons happen once a month" but I think you want to say "the day with seven lessons", "the seven-lesson day happens once a month."

("it happens a once a month"だね。授業が何かをする、ことではなくて、先生が授業をすることで、授業が"生じる"から it happensを使うんだ)

K: Yeah.

T: If you said "seven lessons happens once a month" maybe it could mean in a month there are only seven lessons. But you mean "one time in a month", "once a month". So, you can say "That seven-lesson..." seven dash lesson here "...happens once a month." So, "... the



圭治くんが書いてきたスクリプトを一文ごとにチェック。
「これはどんな意味?」と先生からの質問も。

seventh is a committee." What is the committee?

("seven lessons happens once a month"と言うと、1カ月に7つしか授業がないことになる。でも、圭治が言いたいのは1カ月に1回ある、ということだよ)

K: It's kind of like group lessons and five and six grade children have a lot of committees. They do a lot of things, like doing for whole school.

T: It's like kind of a meeting, isn't it? I think "committee" is a perfect word to use. So, you say "there are a lot of topics discuss". Do you know what "discuss" means?

K: Means like each other... saying a lot of things.

T: Talking together and trying to maybe agree on something or trying to find some solution to something. Yep! So I think that's more natural. "... a lot of topics *are* discussed in the committee lessons, such as sports, the environment, school lunches, and health".

K: Yeah.

T: So you have meetings about school issues? Do you know what an issue is?

K: No.

T: The issue is usually just the matter. Just a thing you have to talk about or you have to fix or discuss. But issue sometimes has a negative meaning, like a problem. So world-issues might be hunger and war and things that people have to talk about. So they might not be big problems, but things you have to talk about. Then, we can just put it there. And start a new sentence : "I



am part of the environment committee.
This committee has a lot of girls". Really?
It's good isn't it?

K: That's very bad. Because there's only five mans.

T: Five boys.

K: Five boys.

T: What is the plural of man? How do you say more than one man?

(“man”の複数形は何になる? 何て言うかな?)

K: One man...two mans...

T: No. Not “mans”. We say “men”.

K: Two men.

T: Yes. One man...two men. One Woman. Two...?

K: “Women”

T: Very good. This pronunciation changes a bit. Well, “This committee has a lot of girls and it is very hard.” Why is it hard?

K: Because there's a lot of things to do. The other committees.

T: Oh, more than other committees. So, “there are a lot more things to do than in other committees” or “there are a lot of things to do compared to other committees”. What does “compared to” mean?

K: “*Kurabete*”

T: That's right. So, “this committee has a lot of girls and it's very hard compared to” or we can sometimes say “compared with”.

K: ...compared with?

T: “Compared with something” but I usually say “compared to something”. Ok, I think this is pretty good. Let's read it through. Start from the beginning and try to include all of my little additions and adjustments.

(“compared with ~”という表現もあるけれど、よく使うのは“compared to ~”。じゃあ直したところも含めて、最初から通して読んでみようか)

K: “Last Thursday my school had seven lessons for the first time, because we got a new head teacher. The seven-lesson day happens once a month and the seventh lesson is a committee. There are a lot of topics discussed in the committee lessons, such as sports, the environment, school lunches, health and other school issues. I am part of the environmental committee. This committee has a lot of girls and it's very hard compared to other committees.”

T: Very nice. That's a great topic.

会話レッスンで 発話量を増やす

T: Well, let's just see your workbook. Do you have it with you today?

K: A textbook?

T: Yeah, get your textbook out. Where was it... this page. So, ask me this question.

K: How does your favorite music sound?

T: It sounds very heavy and it sounds very powerful.

K: What kind of music is it?

T: It's rock music but usually quite hard rock music or metal music. Do you sometimes listen to metal music?

K: I don't know what's metal music.

T: One more time. Metal music...?

K: ...what metal music is!

T: Very good. Well...it's a kind of music that involves quite heavy guitars and



「これはどんな味?」「どんな手触り?」など一問一答形式の発話レッスンで、会話表現を増やしていく。

drums. The sound is quite powerful and the singer is sometimes yelling.

K: I don't like yelling sound.

T: Well, maybe give it a try and you will. Ok. Does the music sound awful or wonderful?

K: Music sounds ...wonderful.

T: Does the potato chip taste salty or sour?

K: It tastes very salty. Sometimes sour?

T: Maybe both. Like salt and vinegar flavor. OK. So, you can ask me “Does it feel “A” or “B”? “How does it “~”?”

K: Ok. How does it taste?

T: It? Pretzels. It's a pack. There are many. So, “How...?”

(ここは“it”かな? プレッツェルはパックに入っているから、たくさんあるよね。そうすると、“How...”?)

K: How do they taste?

T: Good. They taste pretty salty. Ok. That's it. I'll give you a little bit of homework. Let's see. Just do this page next time and for your new My Story, what is your new topic?

K: Anything is ok.

T: Well, I want you to tell me about your favorite comic.

K: Comic? I don't have favorite.

T: Yes, you do. You can talk about your favorite comic series, maybe not just a single book; favorite comic series. And if you can't choose, you can write about, two.

K: Ok.

T: Ok, here you go.

K: Thank you.

T: You're very welcome. Thanks. Keiji!

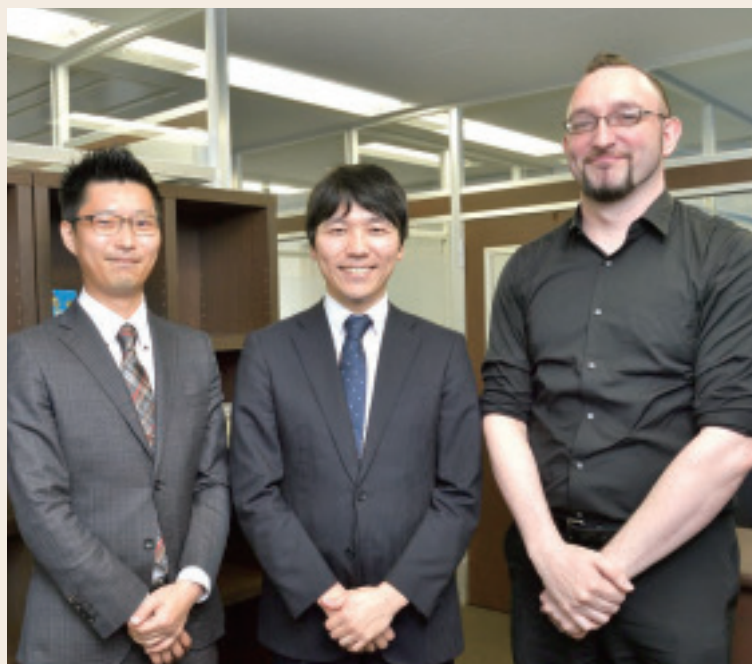
より自然な英文になるように、文法や単語を添削しながらスクリプトを修正。



インターTOMAS大崎スクール

TOMASとインターTOMASが融合した初コラボレーションスクール。

大学入試改革に向けて「英会話」+「受験対策」が可能です。



左から平谷マネージャー、石田エリア・マネージャー、Paul先生

英語専門スクールのインターTOMASに進学塾のTOMASが加わったことで、大学入試改革を見据えた本格的な受験対策が可能になりました。ドア一つでTOMASとつながっている好環境を活用して、お互いの生徒が行き来しながら、さまざまなニーズに応えていきたいと思います。

スタッフからのメッセージ



エリア・マネージャー 石田 誠

TOMASの受験対策ノウハウとインターTOMASのメソッドをお互いに活用して、一人ひとりの生徒の夢を実現していきます。



スクール・マネージャー 平谷純一郎

英語4技能を身につけられるオリジナルメソッドで、大学入試改革に先手を打っていきましょう。



講師 Paul Ewen

Each student wants something different, and I try to deliver that in a way that is both interesting and fun for them.

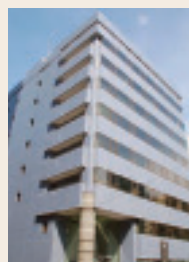


インターTOMASとTOMASをつなぐドア。TOMASの自習室を利用するなど、生徒たちは自由に行き来しています。



隣にはTOMAS大崎校があります。

スクールData



〒141-0032 東京都品川区大崎5-10-10
大崎CNEビル5F
TEL:03-6421-7636



英語学習相談

Q&A Vol.1

英語学習の「困った!」はこう解決!



今回のアドバイザー Robin 先生

■PROFILE

日本出身。専門学校、企業までの英語指導経験を積み、現在は幼児から社会人までを指導。サーカスパフォーマンスの顔も持つ。

Q. どんなに練習しても、リスニングが上達しません。

A. リスニング対策として非常に効果的なのは、音読練習です。音声付きの教材を利用して、ネイティブの発音、リズム、抑揚、音のつながりを徹底的に真似して音読してみましょう。音読を繰り返すことで、英語のスピードに耳が慣れ、最初は聞き取れなかった英語がだんだん聞き取れるようになります。そして、1日30分程度でも毎日継続して学習することが上達するポイントです。成果を体感できるまで粘り強く繰り返しましょう。

この一言、 英語で言える?

シーン別
英会話
VOL. 3

一見、簡単そうな表現でも、意外とスッと出てこない英語の
フレーズをご紹介します。知っておくと、自然な会話が出来ますよ!

道案内編

「何かお困りですか?」

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの影響により、
多くの外国人旅行客が日本を訪れています。道に迷っている外国人
旅行客を見かけたとき、どのように声をかければいいでしょうか?

私 — : May I help you?
(何かお困りですか?)

旅行客 — : Yes! I'm looking for this museum.
(はい、博物館を探しています)

私 — : OK, you are here. Go straight and turn left on
the next corner. Go past the bookstore,
and you will see the museum on your left.

(あなたは今ここにいるので、まっすぐ進んで次の角を左に曲がってください。)
(本屋さんを過ぎると、左側に博物館が見えてきます)

旅行客 — : Thank you very much!
(本当にありがとう!)

私 — : You're welcome.
(どういたしまして)



今回の一言

May I help you?

(何かお困りですか?)

このフレーズは、異国で困っている
状況ではとても嬉しい一言です。
地図や案内図を見て困っている様子の
外国人を見かけたら、まずはこんな一言から
声をかけてみてください。

ワンポイント

道案内で知っていると役立つ表現

- Go straight. (まっすぐに行く)
- Turn left/right. (左/右に曲がる)
- Go past ~, (~を過ぎると)

1time 1phrase

Popular English Expression VOL. 1

映画や文学作品の
名セリフをご紹介します。

「Tomorrow is another day.」

— 明日という日がある — 『風と共に去りぬ』より

映画『風と共に去りぬ』(原題: Gone with the wind) の
ラストシーンで主人公、スカーレット・オハラが言う
有名なセリフです。意味は

「If we fail or miss out at something,
there is always tomorrow to try again. Never give up!」

今がどんな状況にあっても、明日という日は必ずやってくる。
だから前向きに生きよう、という強い心からくるポジティブな言葉です。

〈例文〉

Lady : Oh, no! I missed out on the sale
at the supermarket today.

Man : Don't worry, it's not the end of the world.
After all tomorrow is another day.



池袋 ② 03-3981-3769

国立 ② 042-580-1369

目黒 ② 03-3492-3759

市ヶ谷 ② 03-5215-3769

渋谷 ② 03-3492-3759 (目黒スクール管轄)

大崎 ② 03-6421-7636

荻窪 ② 03-5347-3759

横浜 ② 045-317-3769

<https://www.inter-tomas.com>